

ICT活用工事（土工 1000m3 未満）積算要領

1. 適用範囲

本資料は、土工量 1000m3 未満の ICT による土工（以下、土工（ICT）（1000m3 未満）及び土工に付随する側溝工（暗渠工）、暗渠工等に適用する。

2. 機械経費

2-1 機械経費

土工（ICT）（1000m3 未満）の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。

なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、土木工事標準積算基準書の「第 2 章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。

① 土工 1000m3 未満（ICT）

| ICT 建設機械名 | 規格 | 機械経費 | 備考 |
|------------------|---|--------|--------------------|
| バックホウ (クローラ型) | 後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 (第 3 次基準値)、 山積 0.45m3(平積 0.35m3) | 損料にて計上 | ICT 建設機械経費加算額は別途計上 |

2-2 ICT 建設機械経費加算額

2-2-1 損料加算額

ICT 建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2-1 機械経費のうち損料にて計上する ICT 建設機械に適用する。

なお、加算額は、以下のとおりとする。

(1) 土工 1000m3 未満（ICT）

対象建設機械：バックホウ

損料加算額：5,470円/日

2-3 その他

ICT 建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。

2-3-1 保守点検

ICT 建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

(1) 土工 1000m3 未満（ICT）

$$\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量(m3/日)}}$$

(注) 作業日当り標準作業量は「第 I 編第 14 章その他④作業日当り標準作業量」の ICT 標準作業量による。

(注) 施工数量は、ICT 施工の数量とする。

2-3-2 システム初期費

ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。

土工 1000m³ 未満 (ICT)

対象建設機械：バックホウ

費用：ICT 建設機械経費損料加算額に含む

3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用

3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。また、3次元起工測量を実施した場合は、3次元設計データの作成費用と同様に計上するものとする。

4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用

原則、断面管理にて出来形管理を実施するため、標記経費は計上しない。ただし、受発注者協議の上、面管理にて出来形管理を実施する場合は、必要額を適正に積み上げるものとする。

5. 積算方法

受注者からの提案・協議により ICT 施工を実施した場合は、[ICT 建設機械使用割合 100%]を用いて積算するものとする。

【参考】

1. 施工歩掛

(1) 土量の表示

すべて地山土量で表示する。

(2) 土質区分

日当り施工量における土質は、次表のとおり区分する。

表 1.1 土質区分

| 土 質 名 | 分 類 土 質 名 |
|--|-----------|
| レキ質土, 砂利混り土, レキ | レキ質土 |
| 砂 | 砂 |
| 砂質土, 普通土, 砂質ローム | 砂質土 |
| 粘土, 粘性土, シルト質ローム, 砂質粘性土, 粘土質ローム火山灰質粘性土, 有機質土 | 粘性土 |
| 岩塊・玉石混り土, 破碎岩 | 岩塊・玉石 |

1-1 オープンカット (バックホウ掘削)

(1) 日当り施工量

オープンカット（バックホウ掘削）の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 1.2 オープンカット(バックホウ掘削)日当り施工量 (1日当り)

| 作業の内容 | 名称 | 土質名 | 規格 | 単位 | 数量 | |
|--------------------------------------|------------------------|--------------------|--|----------------|-----|----|
| | | | | | 障害 | 障害 |
| オープンカット 1,000m ³ 未満 | バックホウ (クローラ型) 運転 | レキ質土・砂・ 砂質土・粘性土 | 後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) | m ³ | 169 | 83 |
| | | 岩塊・玉石 | 後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) | 〃 | 129 | 64 |

1-2 片切掘削

(1) 日当り施工量

片切掘削の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 1.3 片切掘削(人力併用機械掘削)日当り施工量 (1日当り)

| 作業の内容 | 名称 | 土質名 | 規格 | 単位 | 数量 |
|-----------------------------------|--------------------|------------------------|--|----------------|-----|
| 片切掘削 1,000m ³ 未満 | バックホウ(ク ローラ型)運転 | レキ質土・砂・ 砂質土・粘性 土 | 後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) | m ³ | 164 |

(注) 1. 本歩掛は掘削までとし、法面整形は含まない。
 なお、法面整形は法面工(法面整形工)の機械による切土整形にて計上する。
 2. 上表にクレーン作業は含まない。

(2) 人力掘削歩掛

片切掘削(人力併用機械掘削)の人力掘削歩掛は、次表を標準とする。

表 1.4 片切掘削(人力併用機械掘削)の人力掘削歩掛(100m³当り)

| 名称 | 土質名 | 単位 | 数量 |
|-------|----------------|----|-----|
| 普通作業員 | レキ質土・砂・砂質土・粘性土 | 人 | 3.9 |

(注) 本歩掛は掘削までとし、法面整形は含まない。
 なお、法面整形は法面工(法面整形工)の機械による切土整形にて計上する。

1-3 法面整形工(1,000m³未満)

(1) 日当り施工量

法面整形工(ICT施工)における日当り施工量は、次表を標準とする。

表 1.5 日当り施工量 (m²/日)

| 整形箇所 | 作業区分 | 土質 | 標準施工量 |
|------|----------|-------------------|-------|
| 盛土部 | 削取り整形 | レキ質土, 砂及び砂質土, 粘性土 | 164 |
| | 築立(土羽)整形 | レキ質土, 砂及び砂質土, 粘性土 | 104 |
| 切土部 | 切土整形 | レキ質土, 砂及び砂質土, 粘性土 | 104 |
| | | 軟岩(I) | 89 |

(2) 施工歩掛

1) 盛土法面整形

①削取り整形

本歩掛は、築立(土羽)部を本体と同一材料(土)で同時に施工し、機械で法面部を削取りながら整形する場合に適用する。

表1.6 削取り整形歩掛 (100m²当り)

| 名称 | 規格 | 単位 | 土質 |
|--------------------|--|----|-----------------------|
| | | | レキ質土 砂及び砂質土 粘性土 |
| 土木一般世話役 | | 人 | 0.24 |
| 普通作業員 | | 〃 | 0.36 |
| バックホウ (クローラ型)運転 | 後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) | 日 | 0.61 |

- (注) 1. バックホウ(法面バケット付)賃料は、バックホウ(クローラ型)賃料と同額とする。
2. 本歩掛には、残土を本体盛土部へ排土する作業を含む。

②築立(土羽)整形

本歩掛は、土羽土部分の敷均し・締固め及び整形を機械で行う場合に適用する。

表1.7 築立(土羽)整形歩掛 (100m²当り)

| 名称 | 規格 | 単位 | 土質 |
|--------------------|--|----|-----------------------|
| | | | レキ質土 砂及び砂質土 粘性土 |
| 土木一般世話役 | | 人 | 0.44 |
| 普通作業員 | | 〃 | 0.47 |
| バックホウ (クローラ型)運転 | 後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) | 日 | 0.96 |

- (注) 1. 本歩掛には、土羽土の搬入等は含まない。
2. 本歩掛には、土羽土の現場内小運搬(20m程度)及び残土を本体盛土部へ排土する作業を含む。
3. バックホウ(法面バケット付)賃料は、バックホウ(クローラ型)賃料と同額とする。

2) 切土法面整形

①切土整形

本歩掛は、機械による切土整形に適用する。

表1.8 切土整形歩掛 (100m²当り)

| 名称 | 規格 | 単位 | 土質 | |
|---------|----|----|-----------------------|-------|
| | | | レキ質土 砂及び砂質土 粘性土 | 軟岩(I) |
| 土木一般世話役 | | 人 | 0.49 | 0.65 |

| | | | | |
|---------------------|--|---|------|------|
| 普通作業員 | | 〃 | 0.40 | 0.56 |
| バックホウ (クローラ型) 運転 | 後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) | 日 | 0.96 | 1.12 |

- (注) 1. 本歩掛には、残土の積込み、運搬、並びに法面保護は含まない。
2. 片切掘削(人力併用機械掘削)の領域については、全面積に適用する。
3. 一度法面整形を完成した後、局部的に浸食・崩壊を生じた場合、保護工を施工する前に行う整形作業(二次整形)を必要とする場合は、人力施工とする。
4. バックホウ(法面バケット付)賃料は、バックホウ(クローラ型)賃料と同額とする。

2. 単 価 表

(1) オープンカット(バックホウ掘削) 100m³当り単価表

| 名 称 | 規 格 | 単 位 | 数 量 | 摘 要 |
|---------------------|--|-----|-------|-------|
| バックホウ (クローラ型) 運転 | 後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) | 日 | 100/D | 表1.2 |
| 諸 雑 費 | | 式 | 1 | (まるめ) |
| 計 | | | | |

(注) D : 日当り施工量

(2) 片切掘削(人力併用機械掘削) 100m³当り単価表

| 名 称 | 規 格 | 単 位 | 数 量 | 摘 要 |
|---------------------|--|-----|-------|-------|
| 普通作業員 | | 人 | | 表1.4 |
| バックホウ (クローラ型) 運転 | 後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)山 積0.45m ³ (平積0.35m ³) | 日 | 100/D | 表1.3 |
| 諸 雑 費 | | 式 | 1 | (まるめ) |
| 計 | | | | |

(注) D : 日当り施工量

(3) 削取り又は築立(土羽)及び切土整形 100m³当り単価表

| 名 称 | 規 格 | 単 位 | 数 量 | 摘 要 |
|---------------------|--|-----|-----|---------------------|
| 土木一般世話役 | | 人 | | 表1.6, 表1.7, 表1.8 |
| 普通作業員 | | 〃 | | 〃 |
| バックホウ (クローラ型) 運転 | 後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) | 日 | | 表1.5 機械損料 |
| 諸 雑 費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

(注) D : 日当り施工量

(3) 機械運転単価表

| 機 械 名 | 規 格 | 適用単価表 | 指定事項 |
|-----------------------------------|--|-------|--|
| バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) (オープンカット) | 後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) | 機-33 | 運転労務数量→1.00 燃料消費量→48 機械損料数量→1.33 |
| バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) (片切掘削) | 後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)山 積0.45m ³ (平積0.35m ³) | 機-33 | 運転労務数量→1.00 燃料消費量→48 機械損料数量→1.33 |
| バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) (法面整形) | 後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)山 積0.45m ³ (平積0.35m ³) | 機-33 | 運転労務数量→1.00 燃料消費量→48 機械損料数量→1.33 |